

紙で田植え? 安全な農産物の生産に役立っています。

三重県青山町では、区画を整備した農地を中心として水田にペーパーマルチを敷くことにより、雑草の生育を抑える農法が普及しました。この結果、無農薬栽培の占める割合が高くなりました。

ペーパーマルチを用いた田植え



農家の方はこう実感しています

Aさん

用水路と排水路を分けたことにより、他の農地から農薬や化学肥料の混入がなくなり、管理がしやすくなりました。

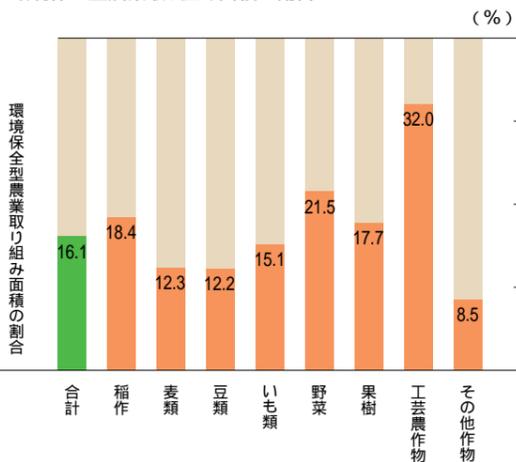
Bさん

区画の整備により、ペーパーマルチ農法における紙の無駄が少なくなり、機械も導入しやすくなりました。

資料) 三重県青山町農家聞き取り

環境保全型農業は全国の農地の6分の1で行われています。

環境保全型農業取り組み面積の割合



環境保全型農業とは、「農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業」をいいます。  
資料) 農林水産省「平成13年度持続的生産環境に関する実態調査」



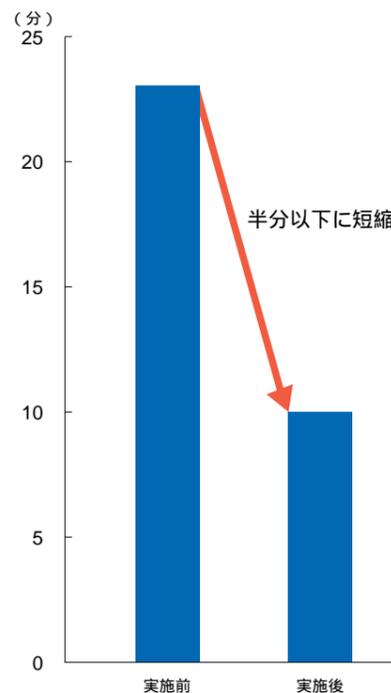
アイガモによる除草

新鮮さをそのままお届けできます。

平成8年～平成12年までにできた農道651地区では、整備する前に比べて、輸送時間が58%短縮されました。

広島県世羅地区では、東西約18kmの広域農道を整備し、効率よく農産物を出荷できるようになり、生産地から消費地が近くなりました。

農道整備事業によって短縮された輸送時間

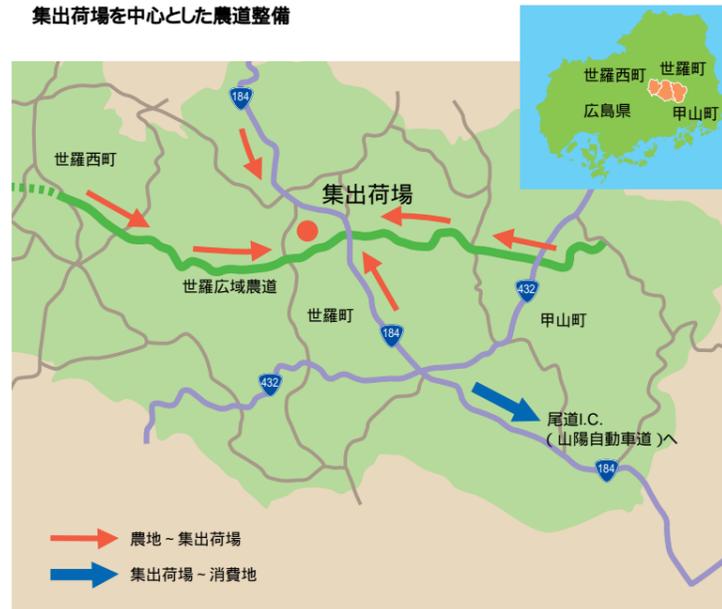


資料) 農林水産省調べ(平成15年)

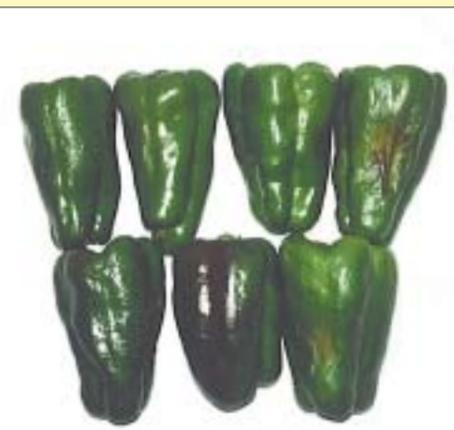
生産地から消費地へ



集出荷場を中心とした農道整備



農道を整備することによって、走行中の振動を軽減し、野菜や果実の荷傷みを防ぎます。



青果物の表面にキズがつくと、そこから傷みが広がります。